

野の仏さまにおききしました

2023.3.6 (月) NO8

我ら地蔵（古式）三兄弟



弘安地蔵（私市共同墓地内）



薬師寺境内（星田）



妙見南山麓石仏群（星田）

お地蔵さん

お地蔵さまというと、僧形で錫杖を持った姿をすぐに思い浮かべるが、この姿は室町期以後のことで、それ以前は錫杖を持たず、右手は印を結び、左手に宝珠をのせた姿である（この地域では古式地蔵と呼んでいる）。地蔵菩薩は釈迦如来と弥勒菩薩との橋渡しをする仏と位置づけられています。

お釈迦さんが亡くなってから、その生まれかわりとして弥勒菩薩がこの世に登場するまでの五十六億七千万年の間、リリーフとして人々を救うのが地蔵菩薩なのです。

その能力は虚空蔵の蔵と同じで無限です。

地蔵の地は大地。大地はすべての生命を育む源ですから、地蔵菩薩の功德もあらゆるものをカバーしているのです。リリーフ役を示すものとして、釈迦如来、地蔵菩薩、弥勒菩薩で三尊を構成する例もあります。

三尊で「過去」「現在」「未来」というわけです。

すでに亡くなってしまった人々の苦しみを救い、おだやかな浄土へと導くのも地蔵の力です。

これは、とくに自分の子をなくした母親にアピールしました。

地蔵によだれかけをかけたりするのはこのためです。三途の河原で迷っている子どもたちを救ってくれるのは地蔵さんなのです。

「お地蔵さんをお願いしたら何でも聞き入れてもらえる」という面では、現世利益のスーパースターであると

野の仏さんからお聞きしました。

西院河原「地蔵和讃」

昔から歌いつたえられてきた庶民の歌のひとつに「地蔵和讃」がある。

父母に先立ち、賽の河原で鬼にいためつけられながら父母を恋いつつ石を積むという亡き子の姿をうつす哀切の響きを、終わりまで聞くことは……。子を失った母の、果てしない悲しみを救って下さるのは賽の河原でその子らをお守りになるお地蔵さまの存在であります。

これは此の世の事ならず 死出の山路の裾野なる
西院の河原の物語 聞くにつけても哀れなり 二つや三つや四つ五つ 十にも足らぬみどり子が
西院の河原に集まりて

父上恋しい母恋しい恋しい恋しいと泣く声は 此の世の声とはこと変わり

悲しさ骨身を通すなり かのみどり子の所作として 河原の石を取り集め 此れにて廻向の塔を組む

一重組んでは父のため 二重組んでは母のため 三重組んでは故郷の 兄弟我身と廻向して

昼は一人で遊べども 陽も入相のその頃は 地獄の鬼が現れて やれ汝等はなにをする

娑婆に残りし父母は 追善作善の勤めなく ただ明け暮れの嘆きには むごや悲しや不憫やと

親の嘆き汝等か 苦患を受くる種となる 我れを恨むること勿れ 黒鉄の棒を差し延べて

積みたる塔を押し崩す 其の時の能化の地蔵尊 ゆるぎ出でさせ給ひつつ 汝等命短くて

冥途の旅に来るなり 娑婆と冥途は程遠し 我れを冥途の父母と 思ふて明け暮れ頼めよと

幼きものをみ衣の 裳のうにかき入れて 哀れみ給ふぞ有難き 未だ歩まぬみどり子を

錫杖の柄に取り付かせ 忍辱慈悲のみ肌にて 抱き抱えて撫でさすり 哀れみ給ふぞ有難き

南無延命地蔵大菩薩

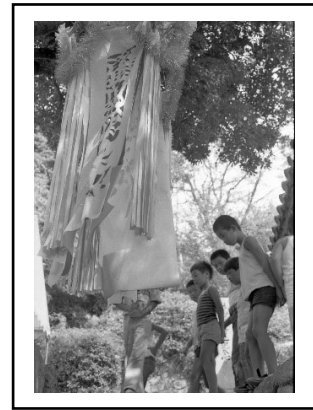
*平安時代、最初にお念仏をひろめたとされる「空也上人（くうやしやうにん）」が書いたのではないかとされている。



地蔵盆・正行寺（寺）



hp より



地蔵盆・須弥寺（森）